

アジア有力誌 医療ツーリズム評価

偕行会グループが受賞

2年連続

名古屋共立病院（中川区）などを運営する医療法



授賞式でスピーチする偕行会の川原専務理事。シンガポールのマリーナベイサンズで（医療法人偕行会提供）

人偕行会グループ（同）が、アジアの有力医療誌「ヘルスケア・アジア誌」が主催するヘルスケア・アジア・アワード2026で、「日本における年間最優秀メディカルツーリズム病院部門賞」を2年連続で受賞した。来日した外国人患者に日本の高度な医療を提供する「医療ツーリズム」の取り組みが評価された。

3月末にシンガポールで授賞式があり、出席した川原専務理事は「患者さんの『日本で治療を受けたい』という切実な願いや期待が私たちの原動力。この先も、医療ツーリズムのフロントランナーとして期待を超えるサービスを創造し続けていく」とコメントした。名古屋共立病院では院内の掲示物や案内表示に外国語を表記し、5言語の通訳体制を整備する。2025年度の外国人患者に関する売り上げは前年度の約1.3倍、5千万円弱に上る。

昨年8月には、料亭やホテルと連携し、旅行中の透析や減塩メニューをそろえた高級懐石料理を楽しめる「旅行透析プラン」の提供を始めた。この取り組みで、「日本における年間最優秀サービス・イノベーション部門賞」も同時に受賞した。（斉藤和音）